

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393500081		
法人名	特定非営利活動法人 ラヴィラント		
事業所名	グループホーム バオバブの木		
所在地	岡山県苫田郡鏡野町富東谷438		
自己評価作成日	平成30年2月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3393500081-008&PrefCd=33&Versi
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成30年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方がよく協力して下さるおかげで、山菜採りや芋掘りに出かけられたり、お祭り等ほとんどの地域の行事にも参加できています。また、災害訓練を地域の方と一緒にいたり、お正月のしめ縄作りを一緒にして下さったり、玄関飾りや雪除けを作りに来て下さったり、雪かきに来て下さったりと、地域の方々に支えられて楽しみながら安全・安心な暮らしができています。
現在、要介護1~5の方が生活されており身体機能にも大きく差がありますが、利用者さん同士がお互いに声をかけ合って助け合うこともあり、他の利用者さんのお世話をすることが励みになって過ごしておられる方もいます。
毎夕、ゲームを取り入れた歩行運動を行い、楽しみながら取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「富地区の魅力は？」と職員に尋ねると「人情豊かな人間味、四季折々の季節感、高齢者に合ったゆったりとした暮らしやすい時間の流れ、例え、地理的なハンディキャップがあっても他の地域にはない魅力がある」と即座に答えが返ってきた。交通の利便性が良くなった現在では、他地域との交流も活発になり、利用者も富地区出身の人より旧鏡野町の人が四分の三以上占めるそうだ。雪に閉ざされる冬季は外出がままならない分、室内で運動が出来るようにとリビングは明るくて広い。今日も手作りのバランスゲームをしながら笑い声と歓声が鳴り響き、皆さん笑顔で楽しんでいった。地域の独居の人の冬季の過ごし方が不安という声もあり、ホームのもう一つの施設を小規模多機能型にして欲しいという意見も出ているそうだ。制度上の壁があって難しい現状との事だが、それだけ地域の人のホームへの期待度も大きく、ここが福祉活動の拠点になっている事がよく分かる。今後の益々の活動が期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、毎日職員の目に留まるよう、ロッカールーム、ホールに掲示して、日々の実践につなげられるよう努めています。	理念「人としての尊厳を第一に安心・安全な介護をめざします」を掲示し、職員間で意識付けをしている。1年間の目標を立てて、各職員が仕事に対するモチベーションを高め、利用者に対して分け隔てなく思いやりを持って公平に接するように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加させていただいたり、保育園児との交流会を隔月で行っています。地域の方が避難訓練に協力して下さったり、山菜採りや芋掘りに行かせていただいたり、お正月のしめ縄作りを一緒にしてくださったり、玄関飾りや雪除けを作ってくださったり、雪かきをして下さったり、野菜を持ってきて下さったりしてとても助かっています。毎月地域に回覧する事業所のお便りを楽しみにして下さっている方もおられるようです。	日頃から地域との密着度が高く、住民も何事にも協力的であり、子供達や地域の人との交流も年々深まっている。今年7月から1日利用定員3名の共用型認知症対応型デイサービスを開始し、地域に開かれたホームとしての歩みを進めており、福祉活動の拠点にもなっている。	町、地域包括、消防署、公民館長、民生、愛育、老人クラブ、区長、歯科医等、地域の主だった役職の人が定期的にホームに参集しホームの為に、地域の発展の為に協議している。この地域の団結力、公助・共助の精神は素晴らしく、地域におけるホームの役割にも益々期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、年2回、認知症について、事業所での事例紹介、実践報告をしました。ボランティア等で度々訪問して下さる地域の方からは、「バオバブのおばあちゃんたちの気持ちがわかるようになってきた」といったお話もありました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎月の活動状況、事故のまとめ、評価結果等の報告をし、いただいた意見は、職員にも周知しより良いサービスにつながるよう考えています。	2ヶ月に1回、多彩なメンバーで構成されている運営推進委員が参加して有意義な会議が開かれており、地域の人から「1年に1回の避難訓練では利用者の状態が分からない」という意見に基づき、各居室前に歩行状態の表示をする等、様々な意見や提案を実践してサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の職員、包括支援センターの職員には運営推進会議に参加していただき、事業所の実情について知ってもらっています。また、何かあればその都度相談にのっていただきます。特に、地域の振興センターには様々な協力をしていただいています。	鏡野町保健福祉課や地域包括とは運営推進会議の席上で、情報交換や意見交換をして日頃から良い連携が出来ている。認知症事例検討会等に参加したり、町の担当者からの緊急入所依頼を受ける事もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等で、具体的な事例を用いて話し合いを行い、身体拘束をしないケアに努めています。	外に出たいという願望が強く、実際に出て行った時は職員が見守りながら付き添い、その人の思いに寄り添った。主治医の助言もあり、地元の警察官や老人会会長等にも写真等で情報の共有してもらっている。身体拘束について研修をして職員間で意識の統一をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で、具体的な事例を用いて話し合いを行い、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用している利用者さんもおられ、後見人の方とお話しさせていただいたりする中で、勉強させていただいています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な説明を行い、ご理解いただけるよう努めています。疑問点等があれば、その都度対応するようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来られた際には、できるだけ状況をお伝えしたり相談したりして、意見なども聞けるようにしています。運営推進会議のメンバーに利用者、その家族にも順番に入らせていただき意見をいただいたり、玄関先に意見箱を設置したりしています。	月末に発行している「パオパブ*ねむだより」には日常の様子や行事の写真が満載であり家族も楽しみにしていると聞く。毎月の請求書と一緒に各担当者が個々の状況報告を記した手紙を家族に送付しており、面会時には積極的に話し合い、意見や要望は運営に反映させている。	昨年からはじめた、家族・地域・職員との「昼食会」は今年も引き続き実施していると聞いている。土曜日開催の希望もあるとの事なので、この好評の企画を回を重ねていき、意見や要望を記録に残して今後の運営に役立てて欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティング、申し送り、面談等で意見や提案を聞けるように時間を作っています。	理事長の家族が運営や介護に携わっているもので、組織面や体制面は盤石であり、職員間のコミュニケーションもよく取れている。毎月の会議や申し送りで情報の共有をし、ざっくばらんな雰囲気の中で相互の話し合いが出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの職員の状況に応じて勤務を考慮しています。個々に応じて昇給等も考え、向上心を持って勤務できるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的なミーティングや勉強会で先輩から後輩へ学べるよう考慮したり、施設内外の研修に参加してスキルアップできるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内外の研修等への参加を勧め、他施設の方々とも意見交換や交流ができるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する際には事前に本人を訪問し、本人と家族から詳しくお話を伺います。初期は特に不安な気持ちに寄り添えるよう配慮し、なるべく早く信頼関係が築けるよう努めます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、申し込み、面接の際には、困っている事等、お話を詳しく伺います。初期には、特に、家族が安心して利用者を預けられるよう配慮して、様子を伝えたり関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の様子や家族等のお話を伺う中で、当事業所のサービスでよいのか等、協力医等にもアドバイスしていただきながら見極めを行い、他サービス利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「利用者さんもできることは何でもする」ことをモットーに、共に助け合えるように努めています。介護員のように動いてくださる利用者さんもおられてたいへん助かっています。ソファで一緒に話したり、一緒にお茶を飲んだりと共に過ごしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時だけでなく、その都度電話で連絡を取り合います。また、毎月の様子を写真付きの手紙にして家族に送り、「写真と手紙で様子がわかっていい」と話して下さるご家族の方もおられます。職員だけではできないところは家族にも協力してもらい、共に本人を支えてもらっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の神社にお参りしたり、ドライブへ出かけて「ここは知っとるなあ」とお話したりしています。地域をドライブしたり行事に参加して馴染みの方に出会う方もおられたり、自分の地区の方がボランティアで来てくださって喜ばれる方もおられます。	昔よく行った場所とか懐かしい思い出のある山菜採りに希望者で行き、「イタドリ」で遊ぶ等、童心に帰って楽しんだと聞いた。利用者は富地区出身の人は2名で、旧鏡野町の人の方が多いと。家族の協力を得て自宅に帰る人もいる等、日頃から面会に来てもらいやすい環境作りをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性等に配慮して居場所作りをします。利用者さんが他の利用者さんの部屋にお話しに訪問されたり、車いすを押してあげたり、家事に気がのらないときには利用者同士で協力し合ったりする場面も多々みられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、機会があれば家族や次の施設の方等から様子をお聞きし、必要に応じて支援できるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から思いを把握し、馴染みの場所へ出かけることや家族に会うこと等の希望にできる限り添えるよう考えています。	「毎日の体操と歩く練習を頑張ろう」という個人目標に対して、実施した日に「ハンコ」を押して、スタンプが8個集まるとお菓子等の「いいもの」がもらえるような取り組みをして、楽しみや意欲につなげて達成感を持ってもらっている。一人ひとりの思いや希望も日頃からよく会話をして把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時、契約時に得られた情報だけでなく、普段の会話から得られた情報を大切にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化に気づいたときには、申し送りやミーティング等で話し合い、伝達ノートに記録して共有し、職員全体で現状把握ができるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者、副理事長、介護職員それぞれの立場で、本人や家族や関係者から話を聞き、ミーティング等で共有し合い、介護計画の作成につなげられるようにしています。	本人・家族の意向を基に、日々の介護記録を参考にしながらカンファレンスを重ね、本人にとっての必要なニーズを拾い出して目標を設定し、支援内容を話し合っケアプランを作成している。定期的なモニタリングをして、状態の変化に応じ、現状に即したプランにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等を記録すること、毎日の申し送り、ミーティング、申し送りノートで職員間の情報の共有、見直しができるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例えば、家族との通院が無理な場合には事業所に対応する等、本人、家族のその時々状況をふまえたサービスを行うよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方がよく協力してくださりとともに助かっています。特に安全面については、災害時の場合のことも共に考えてくださり気にかけてくださっているの、安心して生活できています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際に、事業所の協力医に変更される方が多いですが、それぞれの希望のかかりつけ医が定期的に往診してくださっており、その都度適切な医療を受けられるようにしています。	本人・家族の希望するかかりつけ医を受診している人、ホームの協力医を主治医とする人等、それぞれであるが、精神科等の専門科には職員が同行している。各利用者の「1日の様子チェック表」があり、受診の時に持参して医師に見てもらっている。訪問看護、訪問歯科の利用もあり、口腔ケアの指導もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の資格をもった職員が1名勤務しており、心身の状態については指示を仰いでいます。また、週1回の町内の医療機関からの訪問看護で、心身の状態をよく診ていただき、受診や介護につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際にはお互いに情報提供を行います。また、その都度、担当医や相談員さんと連絡を取り合います。入院のない間も関係が途切れないよう連絡を取って関係づくりに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で最後まで過ごしたいと希望される利用者さんと家族が多く、主治医の指導・協力のもと、看取りに取り組んでいます。終末期が近づくと、家族とともに最後を迎えられるよう、事業所の支援等についてリーフレットをもとに話し合いをさせていただきます。今年度は2例の看取りを行いました。	開設以来ホームでの看取りは数例あり、今年度も老衰による自然な最期に立ち会った。家族が看護師だった人の場合には、点滴等で協力してもらった例もあり、医療機関・家族・職員等で話し合いながら出来る限りの支援をしている。また、職員間で看取りの研修をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作成し、職員に周知徹底しています。救命士さんの指導による救急法講習会を年1回行い、実践力を身につけられるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を消防関係者、地域の方と一緒に、利用者さんの様子を知ってもらっています。緊急時には地域の協力住民の方にも連絡網が回るようマニュアルを備え、共有していただいています。	ホームの裏にある地域の人所有の建物で実際に火災が起き、地元の消防団員の施設長が消火活動に従事して無事鎮火したという話を聞いた。定期的な避難訓練はしているが、職員・利用者にとって今回の騒動は生きた教訓となったようだ。消防署員が来所して救急法講習会があり、自分もやりたいと希望した2名の利用者が心肺蘇生法に挑戦した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも掲げ、一人ひとりを尊重することを大切にしています。慣れ合いになってしまわないよう今後も気をつけなければいけないところです。	呼称については、本人に名前の呼び方の希望を聞いて、自尊心を傷つけないような配慮をしている。尊敬の念は敬語とは限らないので、状況に応じて言葉を使い分ける事で話そうとする意欲をかきたてる効果もあり、一人の人格ある人間として接していることを実感してもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で、思いや希望を表せない方には選択肢を示し、自己決定できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事等の都合上希望に沿えないときもありますが、お昼寝されたり、ホールで過ごされたり、散歩へ出られたり、と普段はそれぞれの希望やペースで過ごされています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に地域の理美容店へ出かけたり、ネイルをして楽しんだりしています。「いい服を持っていても来ていくところがない」という利用者さんの声を聞き、クリスマス会では、それぞれ一番いい服を着て会を行いました。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には職員が調理していますが、時間があるときには、利用者さんにも食材を切ってもらったりします。食器の後片付けも率先して手伝ってくださる方もおられます。月に1~2回行うクッキングでおやつを作ったりするのも楽しみにしています。	1ヶ月単位で副理事長がカロリー計算をして献立表を作っているとの事で、1週間分の献立表がリビングに掲示されており、職員が手作りしている。利用者が代表して昼食のメニューを読み上げ「それでは皆さんお昼を美味しくいただきますよ」の挨拶の後、食事をいただいた。全介助でペース食の人もいるが、殆どの方が自力摂取していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの状態に応じて、普通食～ミキサー食で対応しています。主治医や看護師の指導の下、栄養や量を考慮し、毎回、食事・水分量を記録して職員が把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、なるべく自分で口腔ケアを行い、必要に応じて歯科を受診したり、往診をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録でそれぞれのパターンを把握し、声かけ等をして、可能な限り自立排泄できるよう支援しています。自立排泄のためにはまず歩行からということで、毎日の体操とゲームを取り入れた歩行運動を継続しています。	排泄が自立で布パンツの人は1名。リハビリパンツにバットの人が多いが、紙オムツだった人が元気になる紙パンツに改善した例もある。職員の娘さんに「オムツマイスター」の資格保持者がいるのでアドバイスがもらえ、それぞれの人にフィットしたバットを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や日々の体操、歩行運動で予防に努めていますが、それでも便秘の方もおられ、必要に応じて、看護師が浣腸を行ったりして排泄できるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回、9:30～16:30の間で、できるだけ利用者さんの好きな時間に入浴していただけるよう配慮しています。	週3回(火木土)の入浴を基本としているが、その日の体調や気分によって柔軟に対応をしている。シャワー浴2名、入浴が自立で更衣・洗身・洗髪を自分で出来る人には見守りをしている。自宅で風呂に入る習慣(銭湯を利用)のない人もいるので、声掛け等に工夫しながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの希望やペースによって休息していただいておりますが、できるだけ夜間休んでいただけるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬が分かるように処方箋をファイルにまとめており、職員がいつでも見ることができるようになっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の片付けや洗濯、掃除等を自分たちでしたり、職員の手伝いをしたり、他の利用者さんのお世話をしたりして過ごされている方もおられます。最近では、ドーナツ屋さんへ出かけてお茶をしてくれることが共通の楽しみです。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	それぞれの希望に沿って、散歩やドライブ等に出かけられるようにしています。地域の方に協力していただき、希望の山菜採りへ行くことができたりしています。家族にも協力していただき、時には自宅へ帰ることもできたりしています。	ホームのある地域はすぐ近くに公共施設や学校が集まっており、公民館や地域の振興センター等の催し物に参加することも多く、日常的な外出先の一つになっている。初詣・花見・紅葉見学等、季節ごとに自然の景色を楽しむ機会も設けており、山間部特有の楽しみ方も多々ある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を紛失される恐れがあるため、原則、持ち込み・所持はお断りしています。必要に応じて、事業所で立て替えして買い物等ができるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	たまに家族に手紙を書かれる利用者さんもおられます。年末にはみんなで、家族等に年賀状を書こうと支援しています。返事が返ってくると喜ばれています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	みんなが集まるホールには、利用者さんが作った季節の壁飾りを飾って季節感を感じられるよう、定期的に製作を支援しています。毎朝、職員と利用者さんが協力して掃除をして、清潔を保っています。	自然な木を使用したという雪の多い地域特有の玄関が特徴的であり、リビングは天気が悪くても室内で運動出来るようにと広い空間になっている。一日を通してリビングで過ごす人が多く、塗り絵に挑戦したり、手作りゲームに熱中して賑やかな歓声が響いていた。テーブルや椅子、ソファを適度に配置して寛げる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの利用者さんが思い思いに過ごせるようソファや椅子を置き、どこでも自由に過ごせるよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室は、ベッド、洗面台、加湿器が備え付けで、その他の家具等は、本人の馴染みのものや使いやすいものを持ち込んでいただけるよう家族に協力していただいています。	居室入り口には、毛筆で書いた利用者自筆の氏名が貼ってあり、自室の目印になっている。居室内は広くて清潔であり、家族の写真や使い慣れた家具、思い出の品々を持ち込み、寛げる居心地の良い環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの状態に応じて、部屋をわかりやすくしたり、共同で使用する場所の空き状況等も自分で判断できるよう工夫しています。		